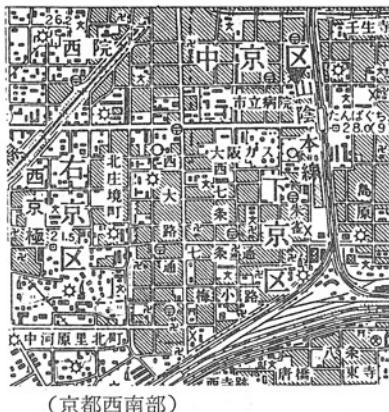


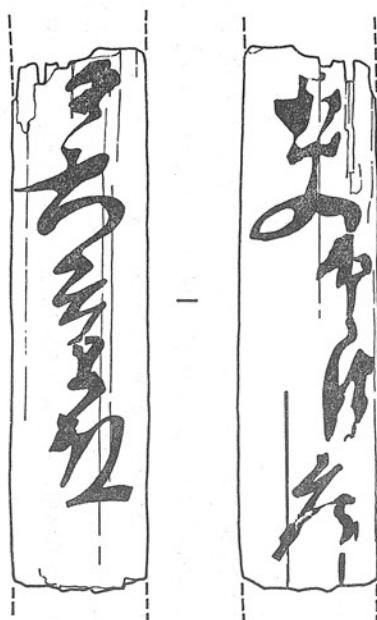
1986年出土の木簡



(京都西南部)

1 所在地 京都市中京区壬生松原町  
2 調査期間 一九八六年(昭61)九月  
3 発掘機関 勝京都市埋蔵文化財研究所  
4 調査担当者 久世康博  
5 遺跡の種類 都城跡  
6 遺跡の年代 平安時代～江戸時代  
7 遺跡及び木簡出土遺構の概要  
調査地は朱雀大路に西接する右京五条一坊三町の南西部に位置する。調査地周辺の遺構分布を検討すると、各時代の池或いは湿地状の落込みが点在している。

調査は民間のビル建設工事に伴う立会調査である。  
調査の結果、現地表下〇・  
四m以下は全面的に湿地状の堆積であった。堆積土は  
五層以上に分層でき、木簡は第五層から箸・曲物底板等の木製品と共に出土した。



京都市文化観光局・勝京都市埋蔵文化財研究所『京都市内遺跡試掘立会調査概報』(一九八六年)  
(久世康博)

木簡は両端を欠くが、墨書は両面にあり、比較的明瞭である。

9 関係文献

(1) • × □ 受今津房 □ ×  
• × □ 六兵衛殿

(100) × 25 × 1.5 081

土器等の遺物の出土がなかつたため、時期決定は困難であるが、木簡に書かれた書体から見て江戸時代のものと考えている。木簡の釈読にあたつては川嶋将生氏(京都市歴史資料館)の協力を得た。

8 木簡の釈文・内容